

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 南砺市立福野小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒939-1507  
富山県南砺市二日町50

E-mail fukuno-es@tym.ed.jp

Website <http://www.fukuno-e.tym.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子 357名 女子 320名 合計 677名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、「主体的に学ぶ子供」をテーマとして、ESDを「人、もの、ことと関わりながら、主体的に問題を解決する子供の育成」と捉え、ESDの実践を通してESDで重視する資質・能力を意識し、中でも進んで関わろうとする態度の育成を重点目標とした。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間を中心に、①地域の文化に係わる学習、②防災に係わる学習、③国際理解に係わる活動等を行った。

① 地域の文化に係わる学習「かがやけ福野の祭り」(3年 総合的な学習の時間)

1学期には、福野で歴史の長い祭りである夜高祭について家の人に聞いたリ、インターネットやパンフレットを活用して調べたりした。しかし、家の人のお話やインターネットからの情報だけでは地域の人のお思い等を知るには限界があったため、実際に祭りに携わる方のお話を聞くことにより、福野の祭りに関心を寄せる子供が増えた。夏休み中には多くの子供が、地域のイベントに参加した。地域の方が喜んでくださったことを聞き、祭りの楽しさを味わった。

そこで2学期は「里いもまつりをもり上げよう」を課題として投げかけることにより、祭りに参加し、地域の人に楽しんでほしいという思いを膨らませた。

子供一人一人の願いを大切に、活動しやすいグループを構成することで主体的に取り組む姿が見られた。実際に祭りに参加し、お客さんの反応を実感して、自分たちの活動の成果を確かめた。この学習を通して、より盛り上がる活動にしたいと願い、意欲的に活動を工夫する姿、実際に地域の祭りに参加することでその楽しさを味わい、地域のよさを感じている様子が見られた。

② 防災に係わる学習「未来につなごう福野の安全」(6年 総合的な学習の時間)

福野地域は大きな自然災害がなく、切実感をもつことは難しいため、自分事として考えるために、実際に地域のショッピングセンター前で地域の方に声をかけて意識調査をし、南砺市役所の防災係の方から話を聞き、地域の問題点について考えた。防災意識の低さが課題だと認識した子供たちは、何とかしたいという意識をもち、追究を続け、地域の人々に防災について発表したいという願いをもって活動を進めていった。地域の方に向けての発表会では、聞く相手を意識した発表を心がけ、積極的に地域の方に声をかける姿が見られた。さらに、自分の生活にも生かそうとする姿が見られた。

③ 国際理解に係わる活動「リッチモンド小学校との交流」(全校)

アメリカ合衆国リッチモンド小学校児童が来校し、児童宅にホームステイをし、高学年を中心に、3日間、学校生活を共にした。一緒に学習したり、遊んだり、日本語や英語で会話をしたりすることを通して、異文化に直接触れ、日本とアメリカの生活や考え方の共通点や違いを感じることができた。また、国籍の違いを越えて共に活動することの楽しさも感じることもできた。



① の写真 (地域の祭りに参加)



② の写真 (地域の方への発表会)



③ の写真 (アメリカの子供と一緒に体育の学習)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

昨年度、ユネスコスクールに申請したことを契機に、E S Dの育みたい資質・能力を学習の場面で具現化するとどのような姿になるのかを研究の視点として、全教員で授業研究を行った。それを基に、今年度の学校教育目標の中に、E S Dの育みたい資質・能力を明示し、実践を行った。子供が主体的に他と関わることでこの資質・能力が身に付くと考え、子供が思いや願いをもつような提示、追究過程での支援、考えの発信という学習過程での指導を行った。その際、一つの教科・単元の枠を越えて、教科横断的な単元構想づくりを全学年で取り組んだ。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

これまでも生活科や総合的な学習の時間に地域と関わる活動をどの学年でも行ってきていた。総合的な学習の時間の全体計画に、E S Dの取組を行うことを明示し、資質・能力を意識した課題解決型の学習を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

研究会を行い、他校の先生方に授業を見ていただき、協議会やアンケートで評価、及び意見をいただく機会とした。1学期の学習を踏まえて、子供の思いや願いに沿って、地域の人々と関わる学習を見ていただき、校内教員も含めた参観者が観察対象児の学びについて協議した。地域と繰り返し関わる学習を通して、一人一人の子供が、地域のよさを見付けることができていることが、全国学力・学習状況調査の「地域の行事に積極的に参加しているか」の質問への肯定的な回答率の高さに表れている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

ESD 推進の取組を研究会という形で発信している。また、県内 ESD 推進校児童が集う会に参加し、子供が活動を紹介した。今年度は、6 年生が総合的な学習の時間を中心に国語科や理科の学習と関連付けて「防災」をテーマに学習を行った。子供たちは、地域の人々の危機意識の低さを課題とし、自分ができることは何かを考え、一人一人の思いで活動し、自分の主張を地域に向けて発信した。この活動を通して、子供たちは、防災の意識をもつだけでなく、積極的に地域に出て調査したり、発信したりすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）

北陸 ESD 推進コンソーシアムで作成された「教員のための ESD ガイドブック」を教職員全員に配付し、それを基に研修をした。また、富山 ESD 講座委員会への参加。北陸 ESD 推進コンソーシアムのネット会員に登録し、他校の実践等を見ることができるようになっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

県内ユネスコスクールの児童が一堂に会し活動の発表を行う、富山 ESD 講座委員会主催の富山 ESD シンポジウムに参加し、代表児童が活動発表をするとともに、他校の活動を知る機会となっている。

ユネスコスクールの研究発表会に教員が参加し、他校の活動を校内で紹介している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

ESDの付けたい力は、新学習指導要領で大切にされていることと重なることが校内や校外の研修を通して分かってきた。ESDの付けたい資質・能力として挙げられていることは、子供が主体的に他と関わって活動する中で身に付くと考え、本校教員は、その資質・能力を意識し、子供が主体的に学ぶことができる授業への改善が意識されている。

地域と関わる活動に対しては、保護者、地域の方から好意的な声が聞かれ、活動に積極的に協力してくださっている。

### （3）平成30年度の活動計画

平成30年度も引き続き、教育計画の中で身に付けたい能力・態度として、ESDの育みたい資質・能力を掲げ、年度当初にESDについての共通理解を行い、全教育活動で意識して行う。

生活科・総合的な学習の時間を中心に、他教科・領域等で、子供たちが、地域の「人・もの・こと」と関わる学習を行う。地域との関わりの中から課題を見付け、地域や学級、学校等の人と主体的に関わりながら課題を解決していく学習を行う。地域の祭りや文化、産業等について考えたり、地域の方と一緒に活動したりすること、毎年続けて行っているアメリカのリッチモンド小学校との交流活動、その他、教育活動に、活動分野や活動を通して育みたい資質・能力を意識した学習を位置付けて行っていく予定である。